

ミカワサンショウウオ *Hynobius mikawaensis* Matsui, Misawa, Nishikawa, et Shimada

【選定理由】

本種は、2017 年に新種記載 (Matsui et al., 2017) された愛知県固有の止水産卵性サンショウウオで、県内のごく限られた地域からしか確認されていない。各生息地点における個体数は少なく、潜在的な採集圧も高いことから、絶滅危惧 I A 類と評価された。

【形態】

頭胴長 50~60mm 程度の小型サンショウウオ。体色は黒褐色から茶褐色で白色または青白色の小斑点を持つ個体もある。前肢には 4 本、後肢には 5 本の指を持つ。産卵期のオスは頭部が肥大し、喉部が白色に変化する。肋条は 12。鋤骨歯列は浅い V 字型。卵嚢はコイル状。卵数は 1 腹 19~56 個。



豊田市, 2015 年 4 月 11 日, 島田知彦 撮影

【分布の概要】

日本固有種。愛知県東部 (新城市・豊田市・岡崎市) にのみ生息。基準産地は新城市。

【生息地の環境／生態的特性】

産卵期は 3 月から 5 月に及ぶが、最盛期は 4 月中旬から下旬。産卵場所は小渓流の源流部やそれに隣接する泥湿地で、泥の中に沈んだ木の枝や葉に産卵されることが多いが、ある程度流れのあるオープンスペースに産卵することもある。産卵場所の周囲は人工林または竹林で、林床はササに覆われることが多く、繁殖期以外の時期にはそうした林床で暮らしていると考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

2019 年現在、18 地点の産卵地が知られているが、いずれも小規模な集団であり、過剰な採集や環境変化により容易に消滅する可能性がある。また繁殖地の多くは人工林中にあり、伐採による環境悪化が懸念されるほか、繁殖地を取り囲む林床のササがシカの食害等によって失われると、悪影響を受けることが考えられる。また、本種の産卵地においては、アライグマによるものと思われるアズマヒキガエルの食害が確認されており、本種にも捕食圧が及んでいる可能性が高い。

【保全上の留意点】

既知産地のモニタリング及び未発見の産地の探索を継続する必要がある。生息地の詳細な地点情報は公表しないと同時に、生息地で環境改変を行う際には本種に与える影響に留意する。

【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動物種に指定されている。

なお、「日本の重要な両生類・は虫類 東海版」(佐藤, 1982) で愛知県内の 4 地点で確認されたとされるクロサンショウウオについては、生息環境からみて別の種であると考えられ、本種または前頁のアカイサンショウウオの可能性が高い。

【引用文献】

佐藤正孝, 1982. 日本の重要な両生類・は虫類 東海版, pp.2-4. 環境庁, 東京.
Matsui, M, Y. Misawa, K. Nishikawa, and T. Shimada, 2017. A new species of lentic breeding salamander (Amphibia, Caudata) from central Japan. Current Herpetology 36(2): 116-126.

(島田知彦)